

## 第16回 会員情報交換会／三日会

2016年1月27日(水)／パシフィコ横浜 会議センター「ベイブリッジカフェテリア」

第16回は、横浜市港湾局長の伊東伸介様より「横浜港の将来像について」というテーマで、横浜港港湾計画並びに横浜市山下ふ頭開発基本計画などについてお話をしていただいた。

開会にあたり協会の藪副会長〔株東芝 電力システム社 京浜事業所長〕から、「協会で行った会員向けアンケートで横浜港に関する話が聞きたいとの声が多かったことから、今回の開催が実現した。発展していく横浜港について局長からお話しがいただけるとのことで、多くの会員企業が集まった」との挨拶があった。(参加80名)

交流会の乾杯では小俣会長より「“みなと・よこはま”の魅力向上には様々な課題もあるが、民間企業と自治体とが協力することで、新たな知恵も出ると思われる。情報交流でさらなる活性化につなげていきたい」との挨拶があった。



最後に、キリンビール(株)横浜工場の勝間田工場長(協会理事)より、「とても夢のある話を聞く事ができた。横浜港に関わって仕事ができる一人として協力していきたい」との挨拶があった。

### 「横浜港の将来像について」…伊東局長講演要旨

■横浜港の現状は、輸出貨物量で約3114万トン、輸入で約4255万トン(いずれも平成26年)。輸出の品種では約4割が完成車、2割弱が自動車部品、1割弱が産業機械となっている。輸入では約2割がLNGで1割強が原油。貿易相手国としては中国・アメリカ・オーストラリアが輸出入ともに上位になっている。

■平成26年12月に「横浜港港湾計画」を改訂した。その中で、横浜港の目指すべき姿として、(1)国際競争力のある港、(2)市民が集い憩う港、(3)安全・安心で環境にやさしい港、の3つを掲げた。

■国際競争力のある港として、公共ふ頭の拡充や国際コンテナ戦略港湾に向けた施策を展開していくとともに、物流拠点の強化も課題である。

■市民が集い憩う港になるために、山下ふ頭の再開発や大型旅客船受け入れの対応と、臨海部における賑わいの創出を工夫していきたい。

■安全・安心で環境にやさしい港として、岸壁の耐震強化や港のスマート化、また環境保全も重要な取り組み課題であると認識している。

■みなとまち・よこはまの魅力を高めるとともに、地域経済の活性化と市民生活を豊かにするために民間企業の皆さんの協力が欠かせないので、この場をお借りしてよろしくお願ひしたい。

